

保護者アンケート 2020.12 <分析>

企画用 (文責:教頭)

- ※ Aよくあてはまる Bどちらかというにあてはまる Cどちらかというにあてはまらない Dあてはまらない
- ※ 数字は%、1月4日現在の回答者数は318。(昨年度248)
- ※ A評価されている ≥ 90 B評価をされているが改善点もある ≥ 80 C早急な改善が必要 <80
- ※ 達成度 = $(4A+3B+2C+D) / 4$ すべての回答者がAならば100

[学校運営について]

①学校は、保護者が学校の教育内容や指導について理解できるよう、情報提供に努めている。

- ・学校だより ・学年だより ・ホームページ ・すぐメール

(A+B=96.0 A) <昨年度 96.3><一昨年度 98.2>

A	B	C	D	無	達成度
42.5	53.5	4.1	0.0	0.0	84.7

- ・満足度 (A+B) は微減だが、おおむね昨年度と同様の結果といえる。
- ・毎月発行している「学校だより」「学年通信」やホームページが情報として一定の評価を受けている。Bが多いのは、保護者はそれ以上のものを望んでいるともいえる。学級通信等…。
- ・ホームページは精力的に更新した。閲覧数は大幅に増えているが、コロナの影響もあり保護者は学校からの情報配信に敏感になっている。
- ・PTA 総会 WEB 承認や保護者アンケートは約9割の回答率。
- ☞保護者が知りたい、見たい、興味がある情報やコロナ関係の情報を今後もタイムリーに発信する。
- ☞学級通信の更なる拡充を図る。学校の教育活動の「見える化」を図る。

②学校は、「全職員で全児童を指導する。」という体制で、児童の困り感に寄り添った指導に努めている。

(A+B=87.7 B) <昨年度 88.3><一昨年度 87.6>

A	B	C	D	無	達成度
28.6	59.1	10.4	1.9	0.0	78.6

- ・おおむね昨年度と同様の結果といえる。
- ・保護者には判断することが難しい設問。教師の指導の動きが見えにくい。欠席児童や生徒指導事案が起きた時、電話連絡や懇談や家庭訪問をしていることが一定の評価を受けている。
- ・Bの割合が高いのは、生徒指導事案で連絡しなかったり、連絡が遅れたりすることがあることもあり、指導の内容に納得していない保護者もいると考えられる。Cも1割を超えている。
- ・今後、発達障がいのある児童への個別の支援がますます必要になってくる。
- ☞共感的理解と個に寄り添ったいいねな指導に徹する。上から目線の指導は時代にそぐわない。全体指導と個別指導のバランスが大切。
- ☞「学習指導」「生徒指導」「発達障がい」児童の困り感に寄り添った指導に努める。

③学校は、児童一人一人が「できた」「わかった」といえる授業を行っている。

・少人数指導（算数） ・教科担任制（高学年） ・学年授業 ・電子黒板 ・ICTの活用

A	B	C	D	無	達成度
26.1	63.8	8.8	1.3	0.0	78.7

(A+B=89.9 B) <昨年度 92.7>
<一昨年度 95.3>

- ・満足度 (A+B) は年々減少している。
- ・高学年での教科担任制、3年以上の算数での少人数指導は保護者にも高く評価されている。
- ・設問⑫との関連で、「自分の子どもは授業が分かると言っている。」と回答した保護者は89.3とほぼ同じ。全体指導中心の授業や少人数指導の指導方法の改善や「できない」「分からない」児童への個別の支援と見届けが必要。様々な授業形態での授業実践も必要。

☞高学年での教科担任制、3年以上の算数での少人数指導は継続する。

☞学校の努力をもっと積極的に保護者や地域に伝える。

☞個別の支援が必要な児童への特支アシスタント・学習支援員・夢づくり講師の配置。

④学校は、児童の安全を確保するため、命を守る訓練など安全教育を進めたり、校舎内外の環境整備を進めたりしている。(A+B=97.2 A) <昨年度 98.0><一昨年度 96.8>

A	B	C	D	無	達成度
41.2	56.0	2.5	0.3	0.0	84.5

- ・高い評価を受けている。
- ・見まもり隊の登下校指導や通学班(長)会、命を守る訓練の実施、毎月の安全点検がこの結果につながっている。

☞登下校指導や通学班(長)会、命を守る訓練については、これまで通り継続する。他方、命にかかわるような環境（ガラスの陳列ケース、温室等）については改善を進める。

☞コミュニティスクールとして、中学校・幼稚園/保育所と合同で「引き渡し訓練」を実施する。

⑤学校は、児童一人一人に自己有用感や自己肯定感を育てている。(A+B=92.4 A)

<昨年度 89.5><一昨年度 86.5>

A	B	C	D	無	達成度
42.1	50.3	6.3	1.3	0.0	83.3

- ・年々評価が向上している。
- ・よいこと見つけや人権週間のひびき合い活動など地道な取組が功を奏している。
- ・設問⑬との関連で、89%の保護者は自分の子どもには自慢できることやよいところがあると肯定的にとらえている。

☞よいこと見つけや人権週間のひびき合い活動の継続。

☞どの子にもよさはあると肯定的にとらえて、よさを見つけて価値づけて保護者や地域により積極的に広める。よさを保護者に伝えられる教職員、そのための情報共有が必要。

⑥学校は、児童一人一人にボランティア精神を育てている。(A+B=89.6 B) 新設

- ・ボランティア活動 ・ボランティア手帳 ・話そう語ろうわが家の約束

A	B	C	D	無	達成度
32.7	56.9	8.8	1.6	0.0	80.2

- ・本年度新設した項目。

- ☞保護者や地域の方に学校での取組を伝えたり、保護者や地域の方と一緒に活動できる場を設定する必要がある。話そう語ろうわが家の約束はPTA 悉皆の取組である。
- ☞保護者にはボランティアは関心が薄い傾向。⑨参照 1.3%

⑦学校は、新型コロナウイルス感染予防対策や熱中症対策を適切に行っている。(A+B=99.4 A) 新設

- ・健康チェックカード ・手指消毒 ・マスク着用 ・水分補給 ・テント設営など

A	B	C	D	無	達成度
67.6	31.8	0.6	0.0	0.0	91.8

- ・最も高い評価を得ている。
- ・健康チェックカードや手指消毒、マスク着用、水分補給、テント設営などについて評価されている。保護者も毎日の検温とチェックを行ったことで評価しやすい設問であった。

- ☞基本的には本年度を継続する。
- ☞「学校の新しい生活様式」最新バージョンを熟読して遵守する。
- ☞R3 学校行事検討

- ・卒業式と入学式は規模縮小 ・運動会は形を変えて ・修学旅行 6月 宿泊または日帰り
- ・稲西学級× ・芸術鑑賞会「かかし座」 ・授業参観と懇談は密を避けて ・プールは× …

⑧保護者の問い合わせ（電話）や来校時の、教職員の対応は適切である。

(A+B=95.9 A) <昨年度 93.1>
<一昨年度 93.3>

A	B	C	D	無	達成度
55.0	40.9	2.8	1.3	0.0	87.4

- ・昨年度までを上回るむ結果といえる。
- ・電話対応、接客の仕方は評価されている。
- ・来校される保護者、地域の方、業者への対応はていねいである。事務職員の接客と児童への対応ぶり、電話対応はすばらしい。

- ☞本年度の継続

[来年度の重点について]

⑨来年度、本校の教育に一番力を入れてほしいことは何ですか。(3つ選択)

ア	基礎的・基本的な学力	54.1	< 本年度 >多い順にエアウ
イ	安全教育（コロナ対策を含む）新設	33.0	
ウ	考えや意見を表現する力	43.1	< 昨年度 >多い順にエウア
エ	他人を思いやる温かな心	55.3	<一昨年度>多い順にエウア
オ	自他の生命を尊重する心	17.9	
カ	挨拶、言葉遣い等の礼節	33.3	・3年続けて同じ上位3項目。
キ	ルールやモラルを守る規範意識	27.7	「他人を思いやる温かな心」
ク	自己有用感・自己肯定感 新設	27.7	「考えや意見を表現する力」
ケ	ボランティア精神	1.3	「基礎的・基本的な学力」
コ	体力づくり	13.5	・3年続けて…をどうとらえるか？

- ・子どもたちに身につけさせたいという保護者の願い。
 - ・基礎的・基本的な学力はコロナ禍であるがゆえに保護者としては気になっている。
 - ・毎年要望しているが、子どもたちの姿が変わっていかないとしたら＝学校の課題
- ☞本年度は「安全教育」「挨拶・言葉遣い」「規範意識」「自己有用感・自己肯定感」を望む声が激増した。
コロナ禍の影響が背景にある。

[お子様について]

⑪わが子は、学校へ行くのが楽しいと言っている。(A+B=90.0 A) …<昨年度 86.3>いじめ関連

A	B	C	D	無	達成度
44.7	45.3	9.4	0.6	0.0	83.5

- ・学校が落ち着いている割には、A回答の割合が低い印象。昨年より若干よい結果。
- ・CとD合わせて10%は多い。30人学級で3人は学校は楽しくないと思っているということ。
- ・②③⑤を複合的にとらえて実践。一人一人の子どもを見る、診る。

☞②③⑤参照

⑫わが子は、学校の授業が分かると言っている。(A+B=89.3 B) … <昨年度 86.7>学力向上関連

A	B	C	D	無	達成度
44.0	45.3	9.7	0.9	0.0	83.1

- ・分かる子と分からない子が二極化していることがうかがえる。
- ・全体指導中心の授業ばかりでは対応できない。ペア・グループ・ディスカッション・パネルディスカッションなど様々な学習形態で授業を行ったり、できない子・わからない子への個別の支援をどう行うのか。ここに尽きる。個別の支援が必要な児童への特支アシスタント・学習支援員・夢づくり講師の適切な配置を考える。
- ・宿題、家庭学習の与え方を見直してみる。漢字・計算ドリルだけでは物足りない。☞③参照

⑬わが子には、よいところや自慢できることがある。(A+B=89.0 B) … <昨年度 95.5>自己肯定感

A	B	C	D	無	達成度
34.0	55.0	8.8	2.2	0.0	80.2

- ・昨年に比べ思わしくない結果。学校臨時休業で在宅時間があまりにも多かった影響か。
 - ・それでも、保護者の89%は、わが子にはよいところがあると考えている。教師はどうだろうか？自分が教えている学級の89%の子どものよさが言えるか。
- ⇒どの子にも必ずよいところがある。肯定的に個をとらえ、よさを見つけて価値づけて保護者や地域により積極的に広める。⑤参照

⑭わが子には、話しやすい教職員がいる。(A+B=80.8 B) 新設

- ・担任 ・ほかの職員 ・養護教諭 ・カウンセラー ・図書館職員など

A	B	C	D	無	達成度
27.0	53.8	18.6	0.6	0.0	76.8

- ・今回のアンケートで最も達成度が低い。
- ・正直もう少しよい結果を期待していた。子どもや保護者との人間関係の希薄さが読み取れる。
- ・C 回答が18.6%は放置できないレベル。一緒に遊んだり、話したりする時間を捻出して、子どもとの良好な人間関係を構築していく。家庭や職場で豊かな人間関係を築く教師でありたい。

保護者アンケートから考える次年度の方向

①達成度 ≤ 80 のキーワード

「全職員で全児童を指導」「児童の困り感に寄り添った指導」「話しやすい教職員」
 「児童一人一人が『できた』『わかった』といえる授業」

⇒児童と教職員の豊かな人間関係（学年の先生・学校の先生）

困り感に対応した個別の支援 教科担任制 少人数指導 アシスタントと支援員

②保護者の学校教育への期待

「他人を思いやる温かな心」「基礎的・基本的な学力」「考えや意見を表現する力」
 「安全教育（コロナ対策を含む）」「挨拶・言葉遣い」「ルールやマナーを守る規範意識」

⇒道徳教育 よいこと見つけ 学習面・生活面のコロナ対策

③コミュニティスクールの重点

「自己有用感や自己肯定感」「ボランティア精神」「挨拶」